

特定都市河川制度の指定へ 県と国の勉強会・打合せで検討

県は令和6年12月18日、記者発表を行い、「令和6年7月の大雨で被害のあった最上川下流・中流部において『緊急治水対策プロジェクト』を始動します」と発表。
事業費は国が約450億円程度、県が約200億円程度の合計約650億円程度。
事業期間は令和6年度、令和11年度。
京田川の河川整備は、氾濫を防ぐための対策検討を進め、整備計画を策定すると発表しています。
三和・樺・関根・千原町内会の役員らは1月23日、庄内総合支庁・建設部長に、7項目の要望を提出しました。緊急治水対策プロジェクトに、京田橋延長・川幅拡張、支障木・堆積物撤去、土堤の整備、保水林や湧水池の確保、京田川を最上川

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

最上川下流・中流
緊急治水対策プロジェクト

7. 京田川の河川整備計画策定【山形県】

浸水被害が発生した京田川（鶴岡市三和地区、庄内町千本杉地区）において、氾濫を防ぐための対策検討を進め、整備計画を策定します。



■事業内容: 整備計画策定
■施行地: 鶴岡市、庄内町
■事業期間: 令和6年度～令和11年度



具体的な対策内容については、今後の調査・検討により変更となる場合があります。

http://www.thr.mlit.go.jp/shinjyou/02_kasen/pdf/project.pdf

ふるさと賛歌

鈴木重雄(八色木)

幼い頃の遊び唄 4 による、大正・昭和初期の幼い頃の遊び唄④
八色木の日向富さん

お手玉遊び

おつとり とらく とらねこさん
おつきり きりく さちねこさん
お前とわたしと かけくらそ
よしわらたんぼの真中で
ひーふーみーやー、五ー言ー……

ばーた ばーた えっちょ えっちょ ばたよ
いろはにほへと ほへとは甘い
甘いは砂糖 砂糖は白い
白いは兎 兎ははわる
はわるはのみ のみは赤い
赤いは ほうづき ほうづきはなる
なるは 尻 尻は臭い
臭いは だーら(肥) だーらは黄色

黄色はバナナ バナナは高い
高いは 富士山 富士山は名高い
名高いは 学者

さよなら 三角 また来て四角
四角はとうふ とうふは白い
白いは うさぎ うさぎははねる
はねるはのみ のみは赤い
赤いは ほうづき ほうづきはなる
なるは 鉄砲どん

と分離し河口を単独で日本海に流す事などをあげました。
特定都市河川制度の指定は、流域治水の実効性を高め、水害に強いまちづくりに向けて、河道掘削などのハード整備が加速されます。

特定都市河川指定

県は2月7日、国と第2回流域治水勉強会・打合せを行い、京田川について、特定都市河川指定要件の整理に向けた検討を進めています。

有機農業の先駆者、相馬一廣さんを悼む



今から33年前の1992年4月、東海テレビに放映され、有機農業の考え方を語っていた（当時45歳）

旧藤島町の元助役を勤めた相馬一廣さん（77歳）が2月5日、逝去されました。

2002年に町助役に就任し、「藤島エコタウンプロジェクト」づくりを中心になって進め、有機農産物の認証資格を持つJASの登録機関に認定され、宮崎県綾町に次いで2番目と、先駆的な取り組みでした。

1971年に日本有機農業研究会（一楽照雄理事長）が創立され、添川の石井甲さん（石井光司さんの母親）が東京の出稼ぎ先から有機農業の情報を持ち込

み、相談したのが相馬一廣さんでした。当時は有機農業の言葉も知られていない時代に、農薬や化学肥料をできるだけ使わず、月山の草地でジャガイモを作り始めました。農協の指導員の小野寺勇治さんらと、農協に有機農業研究会を立ち上げ、会長としてリードしてきました。アジア学院留学生の庄内研修では、最初に相馬さんらの月山小屋に宿泊し、相馬さんが有機農業の考え方を語るのが研修の始まりとなっていました。

もし、藤島町が合併していなければ、有機農業のまちづくりが大きく発展していたのではないかと思わざるを得ません。

東田川史跡物語 島野嘉作 横井時敬推薦で 郡稲作教師に 青山 崇

島野嘉作が奉職した福岡勸業試験場は、1879年（明治12）国にさきがけて設立され、翌年同地内に農子所（明治14年に福岡農学校と改称）を設置。

明治15年、福岡農学校に横井時敬が赴任し、数年で学校長、明治22年農商務省に転任する。この「福岡時代」に、既述の種籾の「塩水選種法」考案、『農業小学』

動けば変わる 意見・要求を 政治へ

政権与党が過半数割れとなつて、国民の要求が通る可能性が開かれました。市政も同様に、声をあげれば変わります。体育館のトイレが壊れたままなど、意見・要求をお寄せください。

私の意見・私の要求

氏名
連絡先
切り抜いて、共産党市議団や
民報配布者にお渡しください

（明治18）発刊など学績を積む。

この間に島野嘉作は、横井に接し大いに農学を学び、稲作改良教師になった。

だから山形から農商務省に1教師派遣の要請があった時、横井の推薦があったのである。明治24年9月、郡長相良守典は、明治17年失敗した県令折田の乾田馬耕の意思を引継ぐと、「以馬耕之法頼乾田之利則百年之後将奈斯民何」（碑文）という強い決意で、議会の同



庄内はありがたい

これは「今季最強の寒波」だという。それも立春を過ぎてからだから、これも異常気象の内か。しかしありがたい事に我が庄内は、警報や注意報に名は上るけれども、その心配がなく過ぎていっている。これを鳥海月山の守りだと言う人も。

▲実際テレビで見ると、一晩で1mを超える雪が降っては大迷惑だが、これが一週間も続くカモ・と言うのだ。それで思い出すのが、ここ庄内でもそんなことがあったという事。

▲それは俺が、税務課から道路の管理をする部署に異動があった年だと記憶している。雪も多かったが猛吹雪というものが一週間程続いたものだった。読者の皆さんにも当時、道路が塞がり動きが取れず、三和の京田橋には、

意を得て、島野を1000日契約で稲作改良教師に招いた。

しかし地域の稲作改良意識は低く、翌年3月、5ヶ月で臨時雇となり、8月には解雇された。

しかし地主の有志が寄付し、稲作教師を続けることができた。



島野嘉作

郡長室に掲示肖像画

知らない他人が何日も泊まったという話、記憶にあるという人がいることでしょう。

▲除雪の人と一晩一緒に寝た若者は、海岸に近い道で県を超えたと電話があったもの。乳飲み子のオシメが無くなってという電話も。

▲我が町の除雪車が元気で、県道が開かなければダメなので、少し風がおさまる予報に県と連絡し、明日何時に京田橋から出られるゾと周知。ブルの運ちゃんには、「ここで放せば大丈夫」という処まで送って来いと言って送ったものだった。

▲そんな話は5〜60年も前の事だよ。以来そんなことはなかったが、それに近い状況が今のテレビでニュースなんだ。自然とは有難かったり、いつかのようには恐ろしかったりだが、警報が出ている庄内は、それが有難いウソだった。り。（石川）